



恕の心



令和4年3月18日 校長 廣瀬 真樹

令和4年度前期生徒会役員選挙 行われる！



3月16日(水)令和4年度前期生徒会役員立会演説会、投票が行われました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、立会演説会はリモートを使い、投票も教室で行われました。

立候補者の演説ですが、多くの方が「つながり」をキーワードに具体的に公約を述べていました。そこにはただ今まで通りのことをするのではなく、支え合い、助け合い、高め合える学校にしていこうという思いの感じられるものばかりでした。また今年度は特に応援演説者の態度にも感心をしました。あれだけの原稿をしっかり覚え、堂々と伝わるように言おうと思えば、それなりに練習をしなければなりません。その「思い」を感じとれた時間でした。これだけのリーダーがいる学校は間違いない！と思います。頼もしいです。

ただ、当たり前ですが、一部の人たちが頑張っても、いい生徒会活動、いい学校にはなりません。全生徒が「他人事」ではなく「自分事」として協力し、サポートできるそんな学校ありたいものです。

第75回丸内中学校卒業式を終えて



卒業生を最高の形で送り出すことができました。卒業生が背中で見せてくれた姿は本当に立派でしたが、何よりもその雰囲気、場所づくりに力を発揮したのは在校生です。「思いやり」と「心遣い」を感じることができました。さあ、いよいよバトンは渡されました。このバトンを大切に、そしてより良いものにしていくのが伝統ある丸中生の役目です。大いに期待したいと思います。

人は人によって人となる

卒業式の式辞の中で「人は人によって人となる」という話をさせていただきました。実は数年前、文科省の杉田洋先生の話をお聴く機会があり、その話がとても印象に残っていました。

人之間と書いて「人間」と読む
人間は、一人では生きていけない
人は人によって人となる
人間は、人間にしか育てられない
人間は、人間の中で育つ

「人は人によって人となる」ということは、人と人との関わり合いがその人の人生に影響するということだと思います。人と人が集団で生活する学校は、皆さんにとって、自分の心を成長させることのできる大切な場所なのだと思います。もちろん先生たちも、生徒の皆さんとの関わりの中で今でも成長しているのだと思います。学校の意味はそこにあるのだと思います。立候補者の皆さんの言っていた「つながり」の大切さは、そのことから考えても学校の根本なのかもしれません。



人と人が関わることで、すれ違い、摩擦が起きることは当然あります。嫌な思いや苦しい思いをすることもたくさんあります。ただそういう経験があるからこそ、人は成長していくのだと思います。この丸内中学校が皆さんの「心の実力」をつける場所であってほしいと心から願っています。

校長コラム

書物を読むのは心を磨くためである 智識(知識)を誇るためであってはならぬ



図書室に飾ってあったのですが、前から気になっていました。司書の相本さんが調べてくださいました。なんとこれを書かれた新木栄吉さんは小松市出身で日銀総裁にまでなられた方でした。中学校の頃の逸話として特待生として授業料を免除されたり、また帰宅後は家業を手伝った後、陽が沈むのを惜しむように屋根に上って読書をしたそうです。

読書は「心磨き」・・・また素敵な言葉と出会いました。

